

科学的な見方・考え方			科目コード	AB1032
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	SR(講義)	1年以上	大内 真弓	



※2018年度に履修方法・単位数が変更された科目です。これから「科学的な見方・考え方」を履修登録される場合は、本科目を参照してください。

※2017年度以前に「科学的な見方・考え方」を履修登録した方は p.21「科学的な見方・考え方」(科目コード：AB1020、4単位、履修方法：RorSR)を参照してください。

科目の概要

■科目の内容

現代社会においては、メディアを通して数多くの情報が瞬時に飛び交い、大した苦勞をすることもなく豊富な情報が手に入るようになりました。しかし、自分では十分に理解していると思っている情報であっても、いざ誰かに説明してみたら、意外とうやむやな理解であったために説明に戸惑ったり、矛盾を指摘されて誤解に気付いたりすることもあるようです。さらに、学習のために調査し多くの事例や資料をまとめていく作業においても、先に結論ありきなのか、論理の飛躍や矛盾に気付かないままに進めてしまうケースが見受けられます。

特に通信教育のように、「書いたもの」のやりとりがメインである場合には、「そういうことが言いたかった(書きたかった)」「そういう意味も含めて書いた(つもり)」と書いていても、実際に文字になって表現できていなければ、読み手には全く伝わりませんし、単なる飛躍したアイディアやひらめきと言われても仕方ありません。

そこで本科目では、論理的に説明するひとつの方法として、資料(図または表)を活用して自身の考えを論理的に組み立てる手法を学び、科学的根拠に基づいた説得力のある表現ができるようになることを目指します。

■到達目標

- 1) 自分の意見を明確に述べたり、わかりやすく説明したりすることができる。
- 2) 問われていることに的確に答えることができる。
- 3) 飛躍がないように論理を組み立てて、他者を納得させることができる。
- 4) データで示されている内容を、正確に読み取ることができる。
- 5) 先入観や一般論を混在させずに、事実に基づいた説得力のある表現ができる。
- 6) 科学的根拠により表現されているか否かの判断が明確にできる。

■教科書

野矢茂樹著『新版 論理トレーニング』産業図書、2006年

(スクーリング時の教科書) スクーリングにあたって、教科書は使用しません。資料を配付します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「ICT 活用力」「クリティカルシンキング力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価80%+スクーリング評価20%

■参考図書

- 1) 池内了著『科学の考え方・学び方』岩波ジュニア新書、1996年
- 2) 長谷川真理子著『科学の目 科学のこころ』岩波新書、1999年
- 3) 長谷川真理子著『生き物をめぐる4つの「なぜ」』集英社新書、2002年
- 4) 山田ズーニー著『話すチカラをつくる本』三笠書房、2009年
- 5) 狩野光伸著『論理的な考え方 伝え方』慶應義塾大学出版会、2015年

スクーリング

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	科学的な見方・考え方とは何か	主観と客観の相違を理解する。
2	多様な表現方法	グループ単位でテーマを設定する。他者の意見に触れる。
3	何を述べたいのか	テーマを理解する。研究目的を設定する。
4	どのように説明するか	他者への説明方法を考える。どんな資料が必要か検討する。
5	どうしたら正しく伝わるか	説明するための流れを構成する。必要な資料を収集する。
6	わかりやすい表現とは	収集した資料を読み取る。分析する。言語化する。
7	文字情報としての表現方法	文章化する際のポイントと注意点を理解する。
8	最終調整～ブラッシュアップ～	論理展開に矛盾や飛躍がないかを精査する。適した形態に整える(選択・まとめ・加工)。文章の推敲方法を確認する。
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントと配付資料を中心に講義を進めます。一部に演習形式のグループワークも導入し、参加者と協力して作業を進めます。また、実際に国見キャンパスの図書館を利用し、必要な資料の検索および収集方法を体験します。全体を通して、受講生が実践を伴いながら学習内容を習得する体験型のスクーリングを行います。

■スクーリング 評価基準

試験は上記「到達目標」に挙げているスクーリングで習得する内容について、どれだけ実践に盛り込めるかを問います。そのためにも、スクーリングを受けるという受動的な姿勢ではなく、スクーリ

ング内容に沿って「主体的に行動する」という気持ちでスクーリングには臨んでください。スクーリングを実践練習の場にできれば、試験はその確認作業のようなものですので、問題なくクリアできる流れになっています。(持込はすべて不可)

■スクーリング事前学習 (学習時間の目安：5～10時間)

- 1) 教科書の「序論 論理とは何か」を読んでください。
- 2) 社会でどのような環境問題が注目されているかを調べ、最も興味を持ったテーマについて、その内容に関する図または表のコピー(出典を明示したもの)を当日持参した上で、自身の考えを述べられるようにしてきてください。なお、新聞記事や書籍などの文字のみで表現されているものは対象としません。

■スクーリング事後学習 (学習時間の目安：20～25時間)

レポート作成に関しては数多くのポイントがあり、簡単に覚えられることばかりではないと思います。特に、図表の引用については明確なルールがあり、図表を利用するにあたってはルールを厳守することが求められています。レポート課題のテーマにのみ気を取られることのないように、スクーリングの内容を見直したり、書き上げた後にもやや時間を置きブラッシュアップをしたりすることを忘れずに、丁寧なレポート作成を心掛けてください。

レポート学習

■レポート課題

※レポートはスクーリング受講後に提出してください。

1 単位め	(1) テキスト159ページの練習問題10の問5において、(例1)～(例4)からひとつの論題を選び、論理の展開に適する資料を貼付し、本文においてその分析結果にも触れつつ解答しなさい。 (2) 自分で論題を設定し、上記(1)に準じて解答しなさい
2 単位め	環境問題に関するテーマを設定し、自分自身の考察を十分に入れて論じなさい。その際、論理の展開に適する資料を貼付し、本文においてその分析結果も述べなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

1 単位め アドバイス 課題(1)については、第10章までのテキストの流れに沿って学習を進めれば、課題への取り組み方は理解できるはずですが、4つの例から1つを選び解答してください。論理を展開する上で、1単位めと同様に資料を貼付することを要求しています。1単位めの解説を参考にして同様に取り組んでください。

課題(2)は、課題(1)と同様に進めますが、自分で論題を設定してください。同じく資料を貼付することを要求していますが、論題に合わせた資料を探すのが難しいと感じた場合は、利用しやすい資料を先に探してから論題を設定するという方法でもかまいません。

本科目の総括として、「環境問題」と言われるなかから自由にテーマを選び論題を設定し、資料を貼付し十分な考察を交えて論じてください。「環境問題」にかかわる内容であれば問題となっている地域や社会における注目度などは問いませんが、テーマの選択は大変重要です。最も関心のあるテーマであれば、好奇心が掻き立てられるため比較的スムーズに進められると思います。ただ、資料が少ないテーマを選択した場合は、論理を展開する上で十分な裏付けができなくなり、主観に偏った流れになる恐れがあります。そういう意味では、関心の度合いのみで選択するのではなく、まずは数多くの資料に当たってみて、そのなかから興味の得られるものを選択する方法が望ましいかもしれません。資料は納得できる論理を展開する上での重要な武器ですので、慎重に選択してください。以下に環境問題と関係する Web ページアドレスをいくつかあげますので、参考に見てみてください。

環境省 <http://www.env.go.jp/>

環境 goo <http://eco.goo.ne.jp/>

PET ボトルリサイクル推進協議会 <http://www.petbottle-rec.gr.jp/>

アルミ缶リサイクル協会 <http://www.alumi-can.or.jp/>

スチール缶リサイクル協会 <http://steelcan.jp/>

公益財団法人古紙再生保健センター <http://www.prpc.or.jp/>

日本ガラスびん協会 <http://glassbottle.org>

チームマイナス 6 % <http://www.team-6.jp/> (2018年 2 月現在サイトリニューアル中)

JCCCA 全国地球温暖化防止活動推進センター <http://www.jccca.org/>

福祉と環境には接点が見出せないと思われるかもしれませんが、生活環境の実情を知り改善していくことは、より良い生き方をするために、そしてより健康に生活するために必須であると考えられます。地球規模的な問題も取り上げられていますが、ぜひ他人ごとと片付けずにそれぞれの目線で考えた問題として捉え論じてください。

参考図書として以下に 3 冊をあげます。1 冊目 1) は、主に科学的な考え方をするということがどういうことかを、若い世代へのメッセージとして大変平易に述べられており読みやすいものです。ただし、具体的な例として述べられているのは、自然科学の分野についてです。2 冊目 2) は科学雑誌に連載されたエッセーをまとめたもので、さまざまな視点から考えている姿勢が楽しさを増します。3 冊目 3) は 2 冊目の著者の専門分野である動物行動学を切り口として、生物の持つ不思議な特長について読み解くことを試んでいます。著者は「生物がつまらない暗記科目などではないことを知って欲しい」ために書いているので、論理的思考を学ぶためだけでなく、生き物についての読み物として大変面白いと思います。ただ、いずれの参考図書を手にしたとしても、自身が丹念に考え考察し、導き出した論理を組み立てるトレーニング抜きには目標は達成できません。そういう意味での参考図書であることをご理解ください。